

【部会名】税務研究部会（一泊研修会）

【日時】平成19年9月4日(火)～5日(水)・

【場所】箱根湯本 河鹿荘

【演題】「お久しぶりです」

【講師】渡辺 顧問（前江東東法人会長・(株)船橋屋代表取締役社長）

【内容】法人会との関わり、今後の法人会へのアドバイス等について、ユーモアを交えながら次のように講演された。

（講演要旨）私が法人会に関わったのは、

昭和46年に青年部会の初代部会長に就任して5年間つとめた。その後、組織部、次に総務部長などを経て、総務担当副会長を15年間つとめ、平成13年に会長に就任し、皆さんに支えられて4年間会長をつとめさせていただいた。

33年間の法人会活動を通じていろいろなことを学んだ。その中で一番は、人の上にたって組織をまとめていくには、自分を支えてくれる人々を信じよう、その言動についてもできるだけおおらかな気持ちで見守っていくような度量、広い心を持つということが大切なことと思った。

この間の内閣改造で、太田弘子さんが経済財政諮問会議の内閣府特命担当大臣に就任した。この太田さんが「地域経済の立て直しに重点を置きたい。当面は地域の問題点等について、審議会の4名の民間議員を地域に出向させて、しかるべき方々と議論をしながら、一緒に対策を考える取り組みを年内に始めていきたい。」と語った。私は、地域経済の実態、情報を発信できるのは法人会だと思っている。

そこで、全法連、東法連が、経済財政諮問会議に対して「地域情報については、法人会が発信しますよ。」とアプローチして、それが実現すれば法人会の存在感は一段と高まるのではないかと思っている。

そのために、当会の専務理事に全法連、東法連に対して、そのようなアプローチをするよう働きかけを依頼してある。

これからの法人会は自会の中で、コツコツとやっているだけでは閉塞を起こしてしまう。もっと広い視野にたって国の政策を考慮した、国のお役にたてるような法人会であってほしいと願っている。



講師の 渡辺顧問



ユーモアを交えながらの講演